

夏服の少女たち



NHK特集「夏服の少女、ヒロシマ 昭和20年8月6日」より

終戦直前の広島。物資が極端に乏しい中で、旧広島県立第一高等女学校の生徒たちは、母親のお古をほどいて夏服を縫う。しかし、心待ちにしていた夏服に袖を通した喜びもつかの間、8月6日を迎える。戦争の暗い影に怯えながらも明るく生きた少女たちの日々をアニメーションで、ボロボロに焼けた夏服を形見として守り続ける遺族の深い悲しみをドキュメンタリーで描く。



少女の家のある
宮島。あの朝、
行かなかったら
死ななかった...



形見の夏服を見て娘を思い
だして後悔する90歳の母と

① 家の人のお古で、地味な色の学校の夏服を作りあげた少女たちの気持ちはどうだった？

② あの朝、熱が下からないのに、家から広島市内の学校の方へ、少女が行ったことを、どう思いますか、またお母さんは、今、どう思っているでしょう、

③ あなたは、資料館で少女の夏服と会ったら、なんと心の声をかけようと思いますか、

3年、組、番、